

# 高知県長期漁海況予報

## 平成18年下期(8~12月)の漁況・海況の予想

平成18年8月発行 高知県水産試験場

このたび、平成18年8月から12月を予測期間とした「平成18年度第1回太平洋イワシ・アジ・サバ等長期漁況海況予報会議」が横浜市で開催されました。国、高知県及び関係都道県等の最新の調査結果から長期予報が作成されましたので、高知県関係を中心にその概要をお知らせします。

### 予報の概要

#### 海況

黒潮：本州南岸の黒潮は、9月までN型流路で推移し、10月以降にA型流路へ移行する可能性がある。

室戸岬沖では8月以降離岸傾向となる。

沿岸水温：「平年並み」～「高め」で推移する。

#### 漁況

マイワシ： 前年を下回る

カタクチイワシ： 前年を下回る

ウルメイワシ： 高水準の前年並か下回る

マアジ： 前年並

サバ類： 前年を下回る

\* 詳しい内容については次ページ以下をご覧ください。

## 海 況

### 【海況の経過（平成18年1月～6月）】

#### 1. 黒潮

高知県沖の黒潮は、2月上旬まで接岸基調で推移しました。2月中旬から、小蛇行の東進に伴い足摺岬沖で「やや離岸」する傾向がみられました。3月から4月中旬にかけては、足摺岬沖で「著しく離岸」、室戸岬沖で「やや離岸」から「かなり離岸」となりました。4月下旬からは両岬沖で接岸傾向となり、6月下旬まで継続しました。6月下旬には再び足摺岬沖で離岸傾向となりました。

以上のように、高知県沖における今期の黒潮は春先と夏期に離岸傾向となり、それ以外は接岸基調で推移しました。

表1 足摺・室戸両岬南沖黒潮流軸位置階級区分

階 級	範囲(マイル)
接 岸	< 25
やや離岸	25 、 < 45
かなり離岸	45 、 < 65
著しく離岸	65

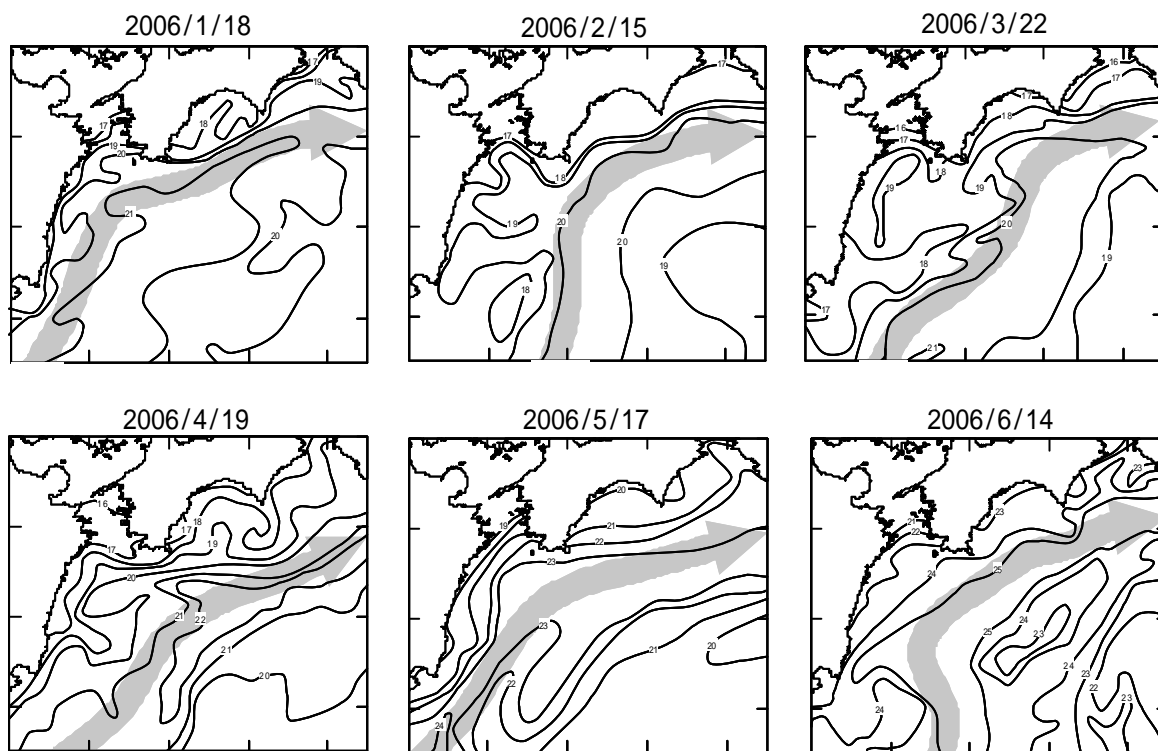


図1 NOAA 衛星海表面水温画像等から推定した黒潮流軸位置

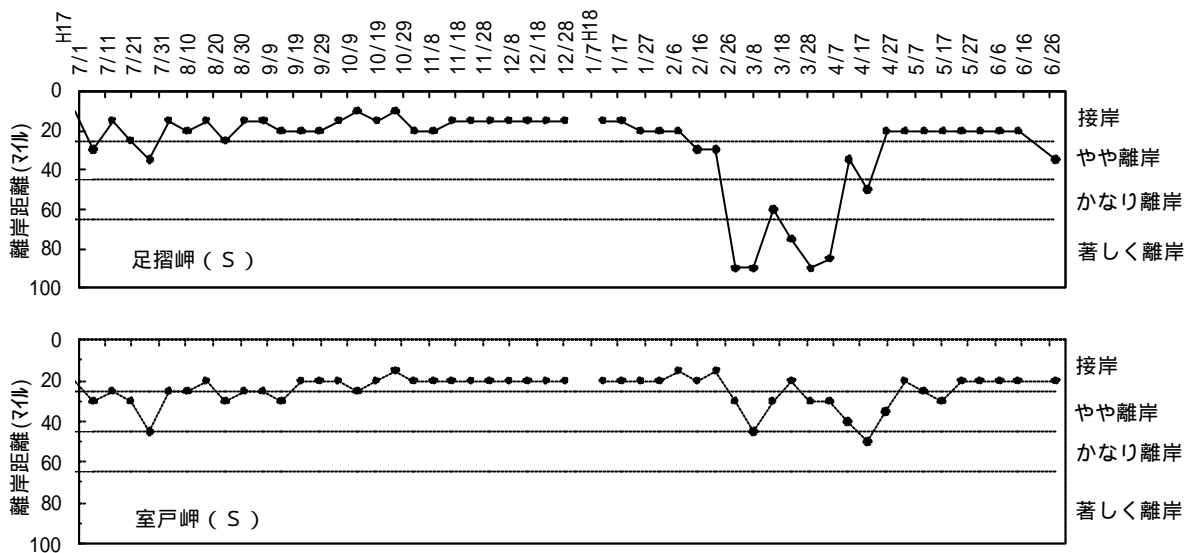


図2 足摺岬および室戸岬からの黒潮流軸離岸距離 (高知県漁海況速報より)

## 2. 沿岸水温

沿岸定線調査による土佐湾内の水温は、全般に平年並みから高めで推移しました。

月別にみると、1月は「平年並み」から「やや低め」、2月以降は「平年並み」から「やや高め」の水温が各層で観測されました。

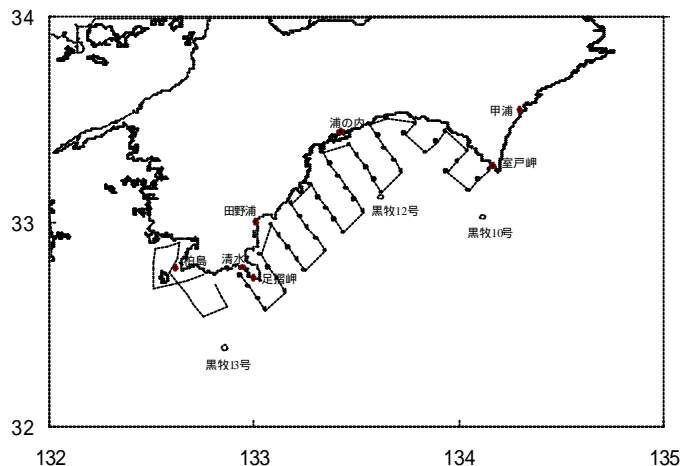


図3 土佐湾観測点

表2 土佐湾平均水温の平年偏差

水深	0m	50m	100m	200m
平成18年1月	- +	-	- +	-
平成18年2月	+	+	+ -	- +
平成18年3月	*	*	*	*
平成18年4月	- +	+ -	+	+
平成18年5月	+	+ -	+	+ -
平成18年6月	+ -	+ -	+ -	+ -

表3 土佐湾水温平年偏差の階級区分

記号	呼称・内容	偏差範囲
+++	著しく高め	2.2 以上
++	かなり高め	1.3~2.2
+	やや高め	0.6~1.3
+ -	平年並み (+基調)	0.0~0.6
- - -	著しく低め	-2.2 以下
- -	かなり低め	-1.3~-2.2
-	やや低め	-0.6~-1.3
- +	平年並み (-基調)	0.0~-0.6

### 3. 特異現象

#### 海況

- ・定線観測などでは、特異現象とされるような事例は認められませんでした。

#### 漁況

- ・県西部の釣りブリが不漁でした。
- ・1～2月、土佐湾におけるシラス漁が不漁でした（1～2月平年比33%）。
- ・1～3月、宿毛湾における中型まき網でマイワシが好漁でした（1～3月平年比159%）。
- ・4～5月、モジャコが不漁でした。
- ・4～6月、宿毛湾における中型まき網でウルメイワシが好漁でした（4～6月平年比276%）。
- ・5～6月、宿毛湾における中型まき網でキビナゴが好漁でした（5～6月平年比183%）。
- ・5～6月、宿毛湾における中型まき網でサバ類が好漁でした（5～6月平年比201%）。
- ・5～6月、土佐湾西部のシイラ漬まき網漁が不漁でした。

#### 【今後の見通し（平成18年8～12月）】

##### 1. 黒潮

流型：7月現在、N型（直進型）の黒潮は、9月までこのまま推移すると思われます。10月以降にA型（大蛇行）流路へ移行する可能性があります。

四国沖の黒潮：7月中旬現在、九州東方沖に存在する規模の大きい小蛇行が8～9月に四国沖を通過する見込みです。

また、室戸岬沖では8月以降は離岸傾向になると予測されます。

##### （根拠）

人工衛星による日本南方海域の海面高度データを利用した小蛇行の形成・発達・東進の予測手法によっています。

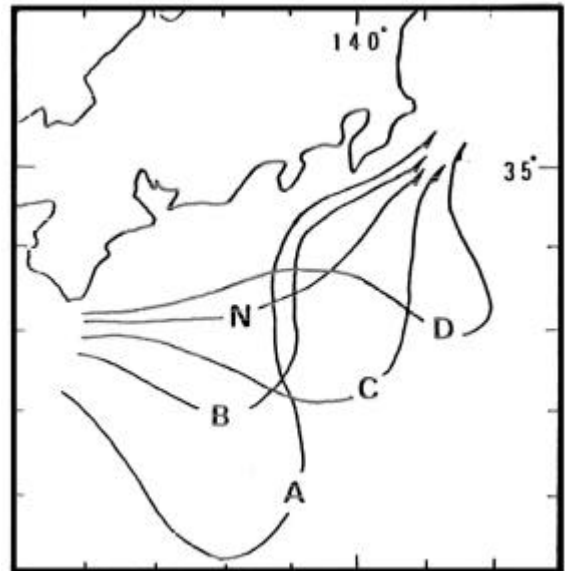


図4 黒潮の流型(吉田:1961、二谷:1969)

##### 2. 沿岸の水温

- 土佐湾：「平年並み」から「高め」で推移する見込み。
- 豊後水道東部海域：「平年並み」で推移する見込み。
- 紀伊水道外域西部海域：「平年並み」から「高め」で推移する見込み。

##### （根拠）

- ・高松地方気象台発表の「四国地方3か月予報」（6月22日発表、予報期間7～9月）によると、期間中の平均気温は「平年並み」か「高い」と予測されている。
- ・神戸海洋気象台発表の「平成18年夏季の南日本海区の海面水温予報」（5月31日発表、予報期間7～9月）によると、南日本海区の海面水温は全般的に「平年並」と予想されている。
- ・近年、土佐湾の表面水温は高め傾向で推移している。

# 漁 況

## Ⅰ サバ類（ゴマサバ及びマサバ）

【漁況経過（平成 18 年 4～6 月）】

### 1 高知県

(1) 宿毛湾の中型まき網による漁獲量は 2,593 トン(以下、漁獲量は期間中の合計を示します。)で、前年(1,727 トン)および平年(1,647 トン、以下、平年とは平成 7 年から平成 16 年の 10 年間の平均値を示します。)を上回りました。漁獲の主体はゴマサバで体長測定の結果、3 月中旬から 4 月下旬には 2 歳魚が漁獲されましたが、6 月上旬には 1 歳魚の混獲が認められ、下旬には 1 歳魚が大半を占めました。

(2) 定置網（窪津・加領郷・椎名 3 水揚地合計）による漁獲量は 151 トンで、前年(183 トン)を下回りましたが、平年(127 トン)を上回りました。漁獲の主体はゴマサバで、東部海域で 5 月に行った体長測定の結果、1 歳魚が大半を占めた前年と異なり、2 歳魚が大半を占めました。一方、マサバは散発的な入網は認められるものの、漁獲量はサバ類全体の 5% 程度の低水準でした。

(3) 釣（立縄・多鈎釣等、清水・加領郷・室戸・甲浦 4 水揚地合計）による漁獲量は 329 トンで、前年(260 トン)を上回り、平年(341 トン)並みでした。漁獲の大半はゴマサバで前年同様、3 歳魚以上のものが大半を占めました。また、マサバの漁獲量はサバ類全体の 1% 程度の低水準でした。

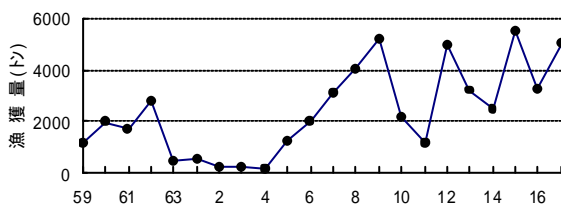


図 サバ類漁獲量の推移（中型まき網：宿毛湾）

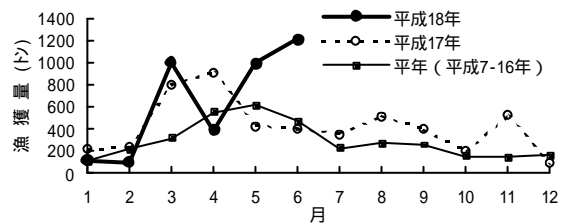


図 サバ類月別漁獲量の推移（中型まき網：宿毛湾）

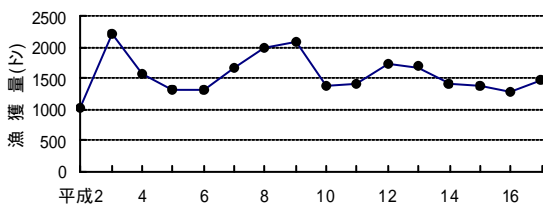


図 サバ類漁獲量の推移（清水・加領郷・室戸・甲浦：立縄等釣り）

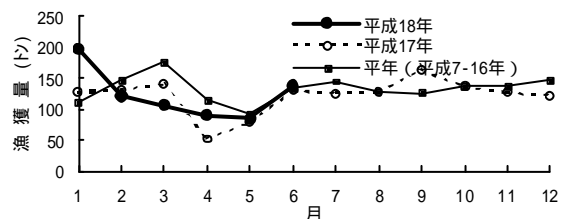


図 サバ類月別漁獲量の推移（清水・加領郷・室戸・甲浦：立縄等釣り）

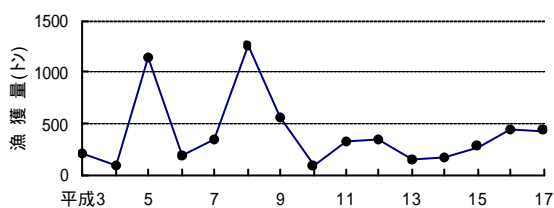


図 サバ類漁獲量の推移 (窪津・加領郷・椎名：大型定置網)

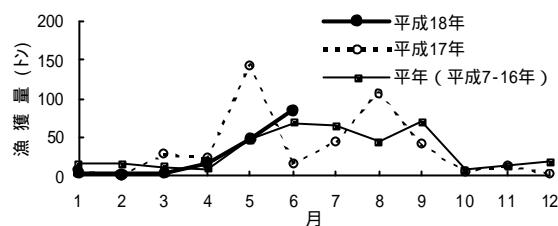


図 サバ類月別漁獲量の推移 (窪津・加領郷・椎名：大型定置網)

## 2 周辺各県の経過

宮崎県：まき網（北浦、島浦、青島の3港）による総漁獲量は3,704トンで、前年比127%、平年比446%（平成13年～平成17年の平均値）と、豊漁であった前年を上回り、2～4月及び6月の漁獲量は1,000トン以上の高い水準で推移しました。魚種はゴマサバで、サイズは資源水準が高いとされる2歳魚（尾叉長30～31cm）が主体となっていました。

愛媛県：豊後水道南部のまき網の漁況は、近年並の高水準で推移しました。

和歌山県：紀伊水道外域の2そうまき網による漁獲量は6,941トンで前年及び平年を下回りました。漁獲の主体はゴマサバで、中、小型魚が多く、4月の漁獲の主体は2歳魚（平成16年生まれ）でした。熊野灘南部定置網の漁獲量は24トンで前年比20%、平年比24%と低調な漁獲で推移しましたが、南部町1そうまき網はゴマサバ主体で前年比503%、平年比821%の好調な漁獲で推移しました。

### 【漁況予測（平成18年8～12月）】

(1) 漁獲対象：1歳魚（平成17年生まれ）及び2歳魚（平成16年生まれ）が主体となるでしょう。

(2) 来遊水準：

- ・ゴマサバ：1歳魚（平成17年生まれ）は前年を下回るでしょう。2歳魚（平成16年生まれ）は前年を上回るでしょう。3歳魚（平成15年生まれ）を含めた全体としては、前年を下回るものと考えられます。
- ・マサバ：1歳魚（平成17年生まれ）、2歳魚（平成16年生まれ）とも前年を上回るものの、依然低水準で推移すると考えられます。

説明：

ゴマサバ：2歳魚が平成16年に0歳魚として来遊してきた時の尾数は、近年では平成8年（17億尾）と同程度に多かったものと推定されています。2歳魚となった今期（8月～12月）も残存

尾数は多いものと考えられており、高水準の来遊が期待されます。

一方、1歳魚が、平成17年に0歳魚として来遊してきた時の尾数は、16年生まれを大幅に下回る、6億尾と推定されており、今期の来遊は多くを期待出来ないものと考えられます。また、平成18年生まれの0歳魚の来遊は、17年生まれをさらに下回るとの情報が各地からもたらされています。

マサバ：マサバ太平洋系群の資源水準は依然として低位であるものの、動向は増加の傾向にあると考えられています。しかしながら、昨年同様、伊豆諸島周辺海域以西では、来遊するサバ類のうちマサバの割合は低く、高知県海域も同様の傾向です。平成18年春季に沿岸に来遊したマサバの幼魚の割合は前年に比べ大幅に増加していますが、尾数はゴマサバに比べると依然、極めて少ない状況であることから、来遊はあまり期待できず、漁獲があっても散発的なものと考えられます。

## II マアジ

### 【漁況経過（平成18年4～6月）】

#### 1 高知県

(1) 宿毛湾の中型まき網による漁獲量は417トンで、前年(304トン)を上回り、平年(422トン)並みでした。銘柄別では、150g以上の「アジ」が170トンで、前年(87トン)および平年(102トン)を上回りました。150g未満の「ゼンゴ」は247トンで、前年(216トン)並みでしたが、平年(320トン)を下回りました。漁獲物の体長測定結果等によると、1歳魚を主体に漁獲されていたと思われます。

(2) 定置網(窪津・加領郷・椎名3水揚地合計)による漁獲量は300トンで、前年(216トン)および平年(245トン)を上回りました。

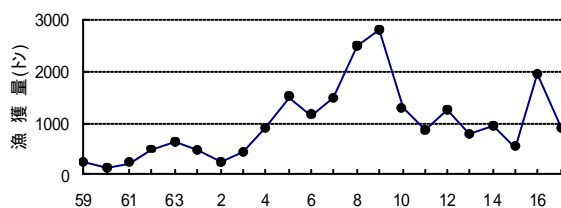


図 マアジ漁獲量の推移(中型まき網:宿毛湾)

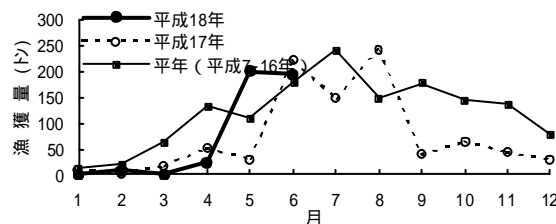


図 マアジ月別漁獲量の推移(中型まき網:宿毛湾)

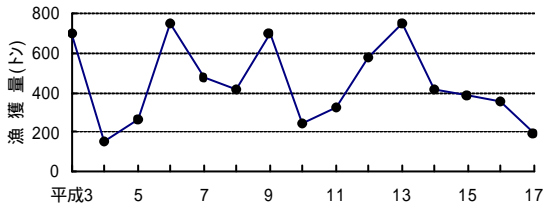


図 マアジ漁獲量の推移 (窪津・加領郷・椎名：大型定置網)

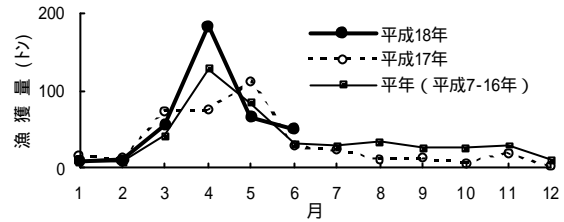


図 マアジ月別漁獲量の推移 (窪津・加領郷・椎名：大型定置網)

## 2 周辺各県の経過

宮崎県：まき網（北浦、島浦、青島の3港）による平成18年1～6月の総漁獲量は779トンで、前年比46%、平年比50%（平成13年～平成17年の平均値）でした。

愛媛県：豊後水道では中部海域主体に漁場が形成され、総漁獲量は2,038トンで前年比114%、近年比102%（平成13年～平成17年の平均値）でした。

和歌山県：紀伊水道外域2そうまき網（比井崎、御坊市、田辺計）による平成18年4～6月の漁獲量は87.2トンで、前年比18%、平年比12%（平成元年～平成17年の平均値）と低調でした。

### 【漁況予測（平成18年8～12月）】

来遊量：

(1) 漁獲対象：0才魚（平成18年生まれ）、1才魚（平成17年生まれ）主体。

(2) 来遊水準：

- ・宿毛湾周辺、土佐湾以東ともに前年並みの見込みです。

説明：

マアジの資源量は中水準で、現在は減少傾向にあります。

今季の主体となるマアジのうち、1才魚は、高知県を含む南日本各地で前年をやや上回る水準で推移しています。しかし、0才魚の加入は南日本の各地で非常に低い傾向にあります。2才魚以上は少ないでしょう。全体では前年並みとなる見込みです。



### III マイワシ

#### 【漁況経過（平成 18 年 4～6 月）】

##### 1 高知県

(1) 宿毛湾の中型まき網による漁獲量は 96 トンで、前年（68 トン）を上回り、平年（100 トン）並みでした。

(2) 定置網（窪津・加領郷・椎名 3 水揚地合計）による漁獲量は 21 トンで、前年（71 トン）および平年（62 トン）を下回りました。

魚体測定結果から、定置網では 0 才魚（平成 18 年生まれ）が、まき網では 1 才魚（平成 17 年生まれ）が主体に漁獲されました。

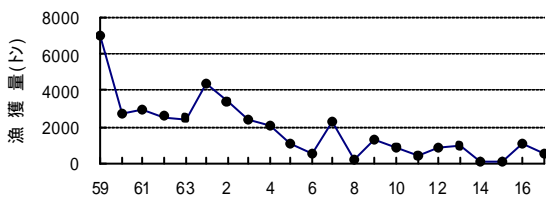


図 マイワシ漁獲量の推移（中型まき網：宿毛湾）

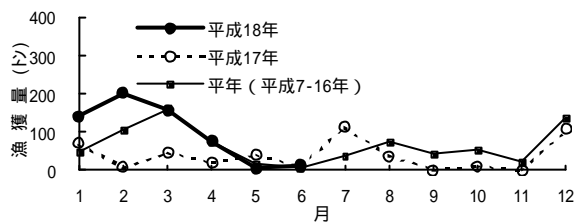


図 マイワシ月別漁獲量の推移（中型まき網：宿毛湾）

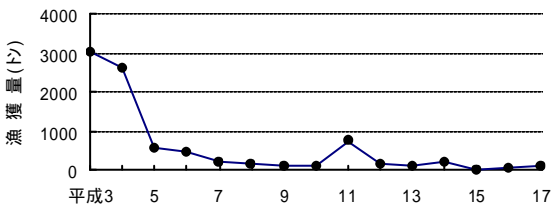


図 マイワシ漁獲量の推移（窪津・加領郷・椎名：大型定置網）

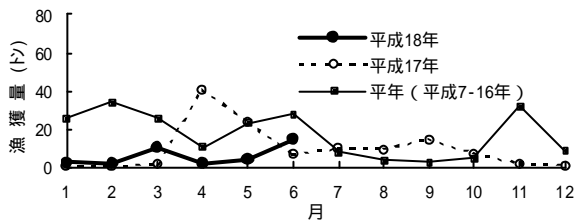


図 マイワシ月別漁獲量の推移（窪津・加領郷・椎名：大型定置網）

##### 2 周辺各県の経過

宮崎県：4～6月のまき網による総漁獲量は約 102 トンで、4、5月は低調に推移し、6月下旬に小イワシの漁獲がみられました。県南海域の大型定置網でも6月から小イワシの入網が見られるようになりました。

愛媛県：豊後水道南部海域のまき網が水揚げ量の99%を占め、4月水揚げなし、5月4トン、6月24トンの計28トンでした。水揚げ量は前年比13%、近年比14%、平年比1%の極めて低水準で推移しており、散発的な水揚げにとどまりました。

和歌山県：串本・南部町漁協の1そうまき網では、前年を上回り、平年を下回りました（前年比

110%、平年比 39%)。熊野灘定置網ではほとんど漁獲がありませんでした(前年比 237%、平年比 7%)。0 才魚を漁獲対象とする南部町漁協(紀伊水道外域東部)の棒受網では、期間を通して不漁であり、前年および平年を下回りました(前年比 26%、平年比 26%)。

#### 【漁況予測(平成 18 年 8~12 月)】

(1) 漁獲対象: 0 才魚(平成 18 年生まれ)、1 才魚(平成 17 年生まれ)主体。

(2) 来遊水準: 高知県海域(宿毛湾、土佐湾、紀伊水道外域西部)では前年を下回ると考えられます。

説明:

(定置網) 近年の魚体測定結果から考えますと、本県定置網では 4、5 月から 7~12cm の 0 歳魚が主体に漁獲され始め、下半期(7~12 月)も 0 歳魚主体の漁となることが予想されます。このことから、4、5 月の定置網マイワシ漁獲量合計と同年下半期における定置網マイワシ漁獲量の関係を見ると、4、5 月の定置網マイワシ漁獲量が多いと下半期の定置網マイワシ漁獲量も多いという関係がみられました。平成 18 年は 4、5 月の定置網マイワシ漁獲量が低調であったことから、下半期は低調に推移すると思われます。

また、中央水産研究所がまとめた平成 18 年産卵期(平成 17 年 10 月~平成 18 年 6 月までの暫定値)のマイワシ産卵量は約 35 兆粒で、近年で最低の平成 14 年並みの結果でした。

高知県では、1~3 月に漁獲されるシラスは主にマイワシシラスですが、平成 18 年 1~3 月のシラス漁は低調に推移しました。ただし、黒潮が高知沖を接岸基調で推移したという、海況による影響もあったと考えられます。

以上のことや、近年の漁況経過などから勘案しますと、下半期は低調で、前年を下回ると予想されます。

(まき網) 近年の魚体測定結果から考えますと、下半期は定置網同様に 0 歳魚が主体に漁獲されることが予想されます。上記(定置網)で説明したように、0 歳魚は低水準であることが予想されるため、下半期は定置網同様に低調に推移することが予想されます。

また、1~3 月のシラス漁獲量と下半期のまき網漁獲量の間関係を見ると、1~3 月のシラス漁獲量が多いと下半期のまき網漁獲量も多いという関係がみられました。1~3 月のシラス漁獲量は低調であったことから、下半期は低調に推移することが予想されます。

以上のことや、近年の漁況経過などから勘案しますと、下半期は前年を下回ると考えられます。

## IV カタクチイワシ

### 【漁況経過（平成 18 年 4～6 月）】

#### 1 高知県

(1) 宿毛湾の中型まき網による漁獲は327 トンで、前年（737 トン）を下回り、平年（325 トン）並みでした。銘柄別では幼魚「ドロ」は68 トンで、前年（425 トン）および平年（85 トン）を下回りました。未成魚・成魚の銘柄「タレ」は259 トンで、前年（312 トン）を下回りましたが、平年（241 トン）並みでした。

(2) 定置網（窪津・加領郷・椎名3水揚地合計）による漁獲量は90 トンで、前年（112 トン）を下回りましたが、平年（52 トン）を上回りました。

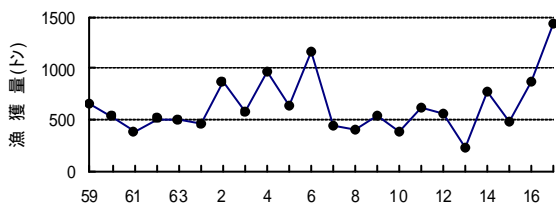


図 カタクチイワシの漁獲量の推移（中型まき網：宿毛湾）

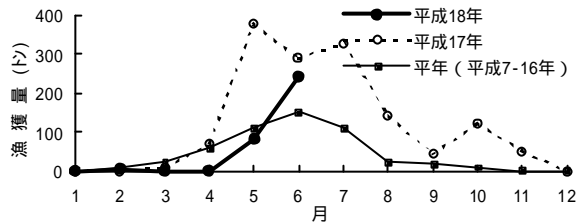


図 カタクチイワシの月別漁獲量の推移（中型まき網：宿毛湾）

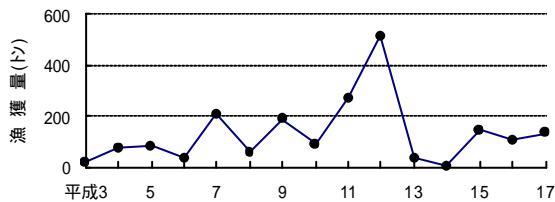


図 カタクチイワシの漁獲量の推移（窪津・加領郷・椎名：大型定置網）

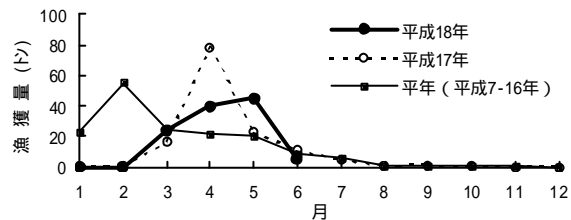


図 カタクチイワシの月別漁獲量の推移（窪津・加領郷・椎名：大型定置網）

#### 2 周辺各県の経過

宮崎県：4月から6月のまき網による総漁獲量は585 トンで、前年同期比 92%、平年比 13%と前年、平年を下回りました。

愛媛県：豊後水道南部海域のまき網が水揚げ量の68%を占め、計1,274 トンの水揚げ量で、前年比 331%、近年比 117%、平年比 204%の高水準で推移しました。

和歌山県：漁獲対象魚種ではなく、熊野灘定置網でもほとんど漁獲がありませんでした。

【漁況予測（平成18年8～12月）】

- (1) 漁獲対象：0才魚（平成18年生まれ）、1才魚（平成17年生まれ）。
- (2) 来遊水準：前年を下回ると思われます。

説明：

近年における本県の漁況経過などから勘案しますと、宿毛湾では好漁の前年を下回ると思われます。土佐湾および紀伊水道外域西部では、例年どおり8月以降の漁獲はほとんどないと思われます。

V ウルメイワシ

【漁況経過（平成18年4月～6月）】

1 高知県

- (1) 宿毛湾の中型まき網による漁獲量は1221トンで、前年（607トン）及び平年（442トン）を大きく上回り、1983年以降で最も多い漁獲量となりました。
- (2) 定置網（窪津・加領郷・椎名3水揚地合計）による漁獲量は27トンで、前年（84トン）を下回り、平年（21トン）並みでありました。
- (3) 宇佐漁協の多鈎釣漁による漁獲量は6トンで、前年（1トン）を上回り、平年（19トン）を下回りました。

魚体測定結果から、定置網では0才魚（平成18年生まれ）が、まき網では1才魚（平成17年生まれ）が主体に漁獲されました。

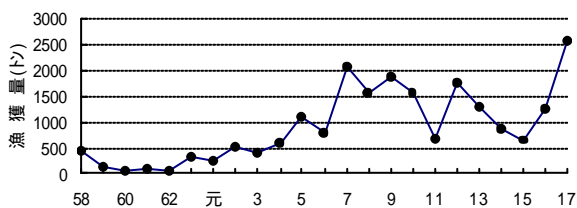


図 ムメイワシ漁獲量の推移（中型まき網：宿毛湾）

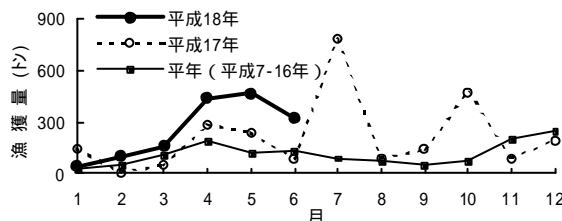


図 ムメイワシ月別漁獲量の推移（中型まき網：宿毛湾）

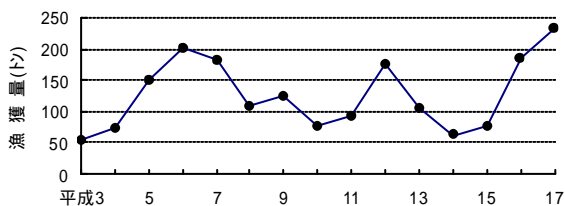


図 ムメイワシ漁獲量の推移（窪津・加領郷・椎名：大型定置網）

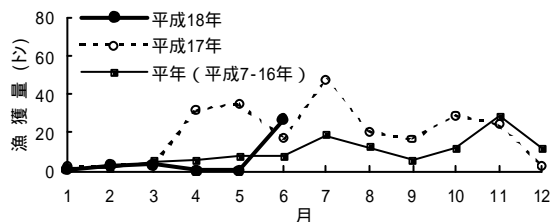


図 ムメイワシ月別漁獲量の推移（窪津・加領郷・椎名：大型定置網）

## 2 周辺各県の経過

宮崎県：1～6月のまき網による総漁獲量は2,285トンで、前年同期比135%、平年比128%と前年・平年を上回りました。1～3月の漁獲は高位で推移し、4～5月は減少し、6月には再び増加しており、昨年および平年と同じような変動をしました。

愛媛県：南部海域のまき網水揚げ量が全体の95%を占め、1～3月は平年および近年を大きく上回る水揚げ（計630トン）が継続しました。4月は顕著な不漁となり、5月以降は回復の兆しがみられました。上半期の水揚げ量は計915トンで、前年比87%、近年比112%、平年比151%の高水準で推移しました。

和歌山県：串本・南部町漁協の1そうまき網では、平成17年8月以降の好調を継続し、前年および平年を大きく上回りました。熊野灘定置網では1～2月にまとまった漁獲があり、前年および平年を大きく上回りました。0歳魚を漁獲対象とする南部町漁協（紀伊水道外域東部）の棒受網では、前年および平年を下回りました。また、串本漁協（潮岬周辺）の棒受網でも、前年および平年を下回りました。

### 【漁況予測（平成18年8～12月）】

(1) 漁獲対象：0歳魚(平成18年生まれ)、1歳魚(平成17年生まれ)主体。

(2) 来遊水準：宿毛湾は高水準の前年並か前年を下回ると考えられます。1歳魚は高水準。土佐湾および紀伊水道外域西部は前年を下回ると考えられます。

説明：

(宿毛湾) 本県定置網では、3～6月に8～10cmの0歳魚が主体で漁獲されます。宿毛湾のまき網では、近年の魚体測定結果から、下半期は0および1歳魚が主体で漁獲されることが予想されます。このことから、3～6月の定置網ウルメ漁獲量合計と下半期まき網ウルメ漁獲量の関係を見ると、3～6月の定置網ウルメ漁獲量が好漁だと下半期のまき網ウルメ漁獲量も好漁という関係がみられました。平成18年3～6月の定置網漁獲量は低調であったことから、下半期まき網漁獲量は好漁の前年を下回ると考えられます。ただし、平成17年下半期は0歳魚主体に高水準の来遊がみられ、平成18年4～6月の近年にない好漁も、この影響が大きかったと考えられます。下半期にも1歳魚として漁獲されることが予想されます。

(土佐湾・紀伊水道外域西部) 0歳魚が主体に漁獲される3～6月の定置網漁獲量が低調に推移したことや、本県における近年の漁況経過などから勘案しますと、下半期は好漁の前年を下回ると

考えられます。

## VI シラス

### 【漁況経過（平成 18 年 4～6 月）】

#### 1 高知県

機船船曳網（安芸地区 4 水揚地・春野町・錦浦・田野浦 7 水揚地合計）による漁獲量は 287 トンで、好漁の前年（366 トン）を下回り、平年（171 トン）を上回りました。

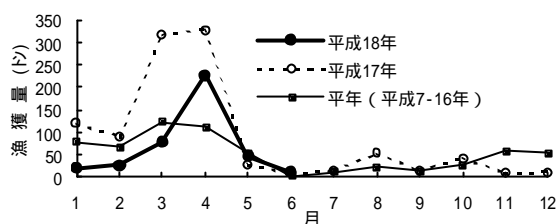
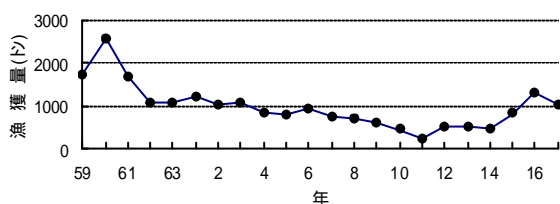


図 シラス漁獲量の推移（安芸地区、春野町、錦浦、田野浦計 7 漁協）

図 シラス月別漁獲量の推移（安芸地区、春野町、錦浦、田野浦計 7 漁協）

#### 2 周辺各県の経過

宮崎県：4～5 月の総漁獲量は 1,349 トンで前年同期比 62%、平年比では 108%と豊漁であった前年を下回りました。3 月から漁が始まり、4 月を頂点に 5、6 月は低位に水準するという漁況は前年・平年どおりでありました。

愛媛県：吉田町漁協における共販取扱量は、9 トンと前年比 25%、近年比 46%、平年比 17%の低水準で推移しています。

和歌山県：紀伊水道外域東部では、前年および平年を上回りました（前年比 119%、平年比 147%）。

### 【漁況予測（平成 18 年 8～12 月）】

- (1) 漁獲対象：0 才魚（平成 18 年生まれ）。
- (2) 来遊水準：前年並みから上回る。

説明：

近年における本県の漁況経過および親魚の来遊水準などから勘案しますと、下半期は前年並で推移することが予想されます。平成 17 年 12 月は黒潮が高知沖を接岸基調で推移したなどの原因で、近年では低調な漁模様でありました。しかし、平成 18 年下半期は、黒潮が蛇行型流路をとることが予想されるため、12 月漁の好転によっては前年を上回ると考えられます。